踏　み　跡　＜　My　mountains　＞

上越	スキー（石打）	No.081

昭和42年3月11日
当初は加藤・白尾両氏と高峰高原へスキーに行こうということだったが、お互いのスケジュールが合わず、私の都合のつく日だと泉田君と二人だけになってしまった。
結局、泉田君の勤める全共連の連中が石打へ行くとのことなので、そこへ入ることになった。
上野駅でワッペンを着けて並んでいると、全共連の日下さん、富田さん、近江さんの三人が一緒になり五人になってしまった。彼ら三人は一泊して月曜の夜帰るとのこと。
上野駅では、同じ全共連のスキー狂の富沢さんをリーダーとし、キーパンチャーを含む万座行のグループも一緒になり賑やかな旅立ちとなった。23 時58分発。座席では寝にくいので、席を譲って泉田君と二人で床に横たわった。

昭和42年3月12日
高崎で目が覚めたので夜食を食べて、もう一眠り。目が覚めたら越後中里だった。
石打駅で乗客の殆どが下車した。花岡という新しいゲレンデ、清津峡へ行く時に越えた十二峠の直下にあたるところで、何となく景色に記憶がある所だった。丸山や後楽園のように混雑していないのがいい。
日下さんの案内で「たなか」という旅館に入り朝食。列車の中で完全に熟睡した私と泉田君はすぐにゲレンデに出て行動開始。時刻はまだ7時。リフトが動き出すまでの一時間を使って、体操と基本的な練習。初めての泉田君は我がいいかげんなコーチで練習。
他の三人が起きだしてきてからリフトで上がり、峠付近のよさそうな斜面で練習したり、下まで滑り降りたり・・・。昼食はゲレンデで自炊。
一応皆シュテムクリスチャニアらしきことまでできるようにはなった。
ここで一つ実験。シュテムクリスチャニアの練習を、ストックを持たずにやったら余分なところに力が入らなくて良いのではなかろうかとの発想から、両手を腰にとって・・・。旨くいく。
スキーの滑走も回転も力学的に分析してみれば 「重心の移動」 ということがわかる。それにはストック無しの方が都合が良い。
約十時間滑り、三人と分かれて18時05分発の終列車で帰京。体が筋肉痛で痛くなった。

石打は巻機山方面の山がよく見えてなかなか景色が良い。ただ残念なことに、スキーに来る人たちには彼方の山並みに目を向けて感激している人がいない。同じ 「山に入っての遊び」ではあるが、いわゆるスキーという遊びと登山という遊びの間に大きな違いがあるような気がした。

以上